令和８年１０月１５日

鳥羽市長　小竹　篤　様

鳥羽市総合計画審議会
会　長　池山　敦

第六次鳥羽市総合計画後期基本計画実施計画の策定及び「第２期鳥羽市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について（答申）

令和８年９月３０日付け貴職の諮問について、下記および別添のとおり答申する。
引き続き、総合計画の推進にあたっては、本市の将来像である「誰もがキラめく鳥羽　海の恵みがつなぐ鳥羽」の実現に向け、実効性のある取り組みの展開に十分配慮されることを要望する。

記

○　第六次鳥羽市総合計画後期基本計画における実施計画について、貴市提出案の内容を精査し、審議会において議論を行ったところ、概ね異論は無かった。引き続き、本審議会の意見等を踏まえて、計画の策定を進められたい。

○　「第２期鳥羽市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の評価については、別紙のとおり評価をした。貴市におかれては、本審議会の評価を踏まえて、引き続き、事業推進の参考とされたい。

以上

（別紙）

# 第２期鳥羽市まち・ひと・しごと総合創生戦略の進展度評価について

| 項目 | 評価 | 評価内容 |
|---|---|---|
| １．働く場の創出・人材育成 | B | 漁業分野での収入確保や観光振興、起業支援、無料職業紹介所を通じた就労支援等は堅調な進展が見られ評価できる。一方で、新規就農者の伸び悩みや農水産物加工品の出品数不足など、農業分野・6 次産業化には課題が残る。観光客（大型客船の乗客や繁忙期の来訪者）の増加を地場産品の消費増加に直結させる仕掛けづくりや、単価アップを図る施策の強化が必要である。 事業承継や若手起業支援においては、行政や既存組織だけで抱え込まず、金融機関や民間の専門事業者等との連携による伴走型支援体制をさらに推進されたい。 |
| ２．新しいひとの流れ・ひとの交流 | C | 市外への転出超過数の改善には一定の成果が見られるものの、外国人観光客数や宿泊者数が目標に届いておらず、空き家バンクの登録件数や市営住宅の空き戸数高止まりに課題がある。観光交通面では、繁忙期における大渋滞や駐車場不足に対し、バス専用枠の臨時一般開放など臨機応変かつ柔軟な運用が求められる。住環境面では、安楽島団地など市営住宅の設備修繕を進めるとともに、離島等の空き家を飲食・宿泊拠点等として活用・事業化できるよう、地域おこし協力隊や外部人材を組み込んだ流動化対策を期待する。 |
| ３．誰もが活躍できるまち | B | 端末整備による学習環境の充実化や鳥羽中央公園の利活用が進んだ点は高く評価できる。子育て支援センターの来場者数回復や水産研究所での種苗販売拡大に向けた取り組みの再強化が必要である。市内の専門学校に通う留学生など、新たな若い住民の増加を地域の活性化に繋げるため、市内企業での就労支援や地域コミュニティとの交流機会の創出に積極的に取り組まれたい。 |
| ４．地域経営の視点に立ち、時代に合ったまちづくり、安心した暮らしの確保 | B | 自主防災活動の活性化や「かもめバス」の利用維持などは評価できる。市民の「住みやすさ実感割合」の低下、地域福祉推進員の減少、公共施設管理計画の進捗遅れには課題がある。また、人口減少に伴う行政サービス利用者の変化等に対応するため、公共交通等については、実態に即した指標管理や観光や日常利用等、需要に応じた柔軟な価格設定等の研究を継続されたい。 |
| ５．連携施策等 | C | 伊勢志摩定住自立圏での広域連携事業や、国土強靭化計画の推進は着実に進んでいる。市営定期航路の利用低迷など離島アクセスの確保は引き続き重要な課題であり、観光客・住民双方の利便性を高める持続可能な運航・交通ネットワークの再構築を求める。 |

※　評価については、Ａ～Ｄの４段階で実施。基本目標ごとに設定する「数値目標」及び具体取組ごとに設定する「重要業績評価指標（KPI）」をもとに実施した内部評価を実施したうえで、総合計画審議会にて議論し、評価を決定した。

Ａ…順調　　Ｂ…概ね順調　　Ｃ…やや遅れている　　Ｄ…遅れている